

# 特別支援教育について

## 1. 特別支援教育目標

- 子ども一人ひとりを正しく理解し、子どもの教育的ニーズに合わせ、学習や行動上の困難の改善するために適切な支援をする。
- 子どもの障害の状態および発達段階やその特性等に応じて、より良い環境を整えてその能力を最大限に伸ばす。
- 特別な教育的ニーズのある子を正しく理解し、共に成長していける理解教育のあり方を考える。

## 2. 具体的な取り組み

### (1) 障害のある子に対する教育の充実

- 児童の障害の実態を把握し、課題を明らかにして指導にあたる。
- 保護者との連絡・連携を密にし、社会的な自立を目指して指導する。
- 個別の指導計画を作成し、効果的に活用する。特別支援学級在籍児・通級指導教室利用児については個別の支援計画も作成する。

### (2) 障害のある子（者）に対する正しい理解と認識を深める。

- 特別支援学級との交流の機会を持つ。
  - カレンダー配布
  - 各学年と交流の機会を持つ。
  - 授業公開、研究授業を通して在籍児童理解の場を持つ。
- 発達段階に応じた理解教育を進める。
- 交流学級において、教科、特別活動等で交流し、共に学ぶ教育を実践する。
- 日常的な交流

### (3) 通常学級で学習あるいは行動上配慮を要する子どもたちの指導

- 子どもを語る会を実施。
- 日常観察とともに「児童生徒理解に関するチェックリスト」を実施し、実態把握に努める。気になる児童の課題について校内委員会で検討し、具体的な支援のあり方を考える。また、支援の必要な児童の個別の指導計画の作成を進める。
- 必要に応じて発達検査を実施し、その資料をもとに日常的な指導の手だてを考える。
- 総合的な判定から特別支援学級入級が適切な児童については、継続的に入級指導を進めていく。(校内委員会)
- 関係機関（療育教室、ことばの教室、医療機関、発達支援センター、子ども支援センターひばり、通級指導教室）との連携に努める。

## 3. 組織

校内委員会・・・(校長・教頭・教務・特支コーディネーター・養護教諭・関係教諭)

#### 4. 年間計画

4月	特別な教育的支援の必要な児童の引き継ぎと児童観察 特別支援教育研修会
5月	子どもを語る会
7月	特別支援教育の研修会 個別の指導計画の作成（1学期の振り返りと2学期の計画）
10月	子どもを語る会
12月	個別の指導計画の作成（2学期の振り返りと3学期の計画）
2月	特別支援教育研修会
3月	1年間の取り組みの評価 新入児の実態把握と対応

※必要に応じて、校内委員会を開催する。

	特別支援学級の取り組みの主な予定	理解学習および交流の主な予定
1 学 期	4月 学級開き      カレンダー作りと 5月 野菜の栽培      配布 6月 7月 七夕かざり 誕生日会	交流学級での交流開始  どんぐり作業所交流（3・4年） 特別支援学級理解① 七夕かざり 夏季休業中 職員研修 どんぐり作業所交流（職員）
2 学 期	9月 運動会がんばったね会 誕生日会 10月 野菜の栽培 収穫祭 11月 作って遊ぼう 12月 がんばったね会	どんぐり作業所交流（1・2年）  特別支援学級理解② どんぐり作業所交流（5・6年） 作って遊ぼう
3 学 期	1月 誕生日会 2月 湖東地区なかよし交流会 3月 卒業をお祝いしよう 1・2組 えがおたっきゅうびん	
年 間	・月1回のなかよし集会（合同学習）	カレンダー配り（隔月） 学習教科・特別活動での交流 給食・掃除等での交流 縦割り活動での交流